

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念の見直し、住み慣れた地域で安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための柔軟な支援を理念の柱に置いた。	○ 基本理念に基づいて、独自のカラーを出せるような取り組みを継続していく必要がある。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時には必ず理念を伝え、理解してもらえるようにしている。申し送り時に、確認し合えるようにしている。	管理者から職員に対し、日頃よりホームの方針やケアの考え方について話しており、職員も日常的に意識している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の集まりやイベントの参加の他、折に触れて事業所の実践を伝えるようにしている。毎月1回、機関誌を発行し地域への情報発信を行い、理解してもらえよう取り組んでいる。	○ 地域の行事等に積極的に参加しながら徐々に、理解してもらえよう取り組んでいる。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に散歩や買い物等に出掛け、近隣の人達と挨拶を交わしたり、声をかけ、気軽に立ち話をしている。又、隣の畑を耕しておられる方に、ホームの畑を耕してもらったり、お茶に誘い交流を徐々に図っている。野菜を差し入れて頂いている。同じ区の方が夫婦で入居され、隣人の方が尋ねてこられる。	○ 気軽に立ち寄って頂けるような、雰囲気作りや、環境作りに力を入れる。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。公民館行事（公民館祭・じげおこし芸能大会・映画鑑賞等）には、積極的に参加し地元の人達と交流している。近隣のボランティアを積極的に受け入れている。近所の小学生が、夏休みの自由研究でバリアフリーについて来訪し勉強された。	○ 地域との交流は、徐々に拡大している。公民館主催のクラブ活動にも参加し、少しずつ顔を覚えてもらっている。障害福祉サービス事業所とも紙すき交流をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	安全パトロール隊の一員として、地域の安全に協力している。	○	入居者と職員でパトロールをしているが、入居者の活性化になり、楽しみながらしている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて具体案の検討や実践に繋げる為の努力をしている。	○	全職員周知徹底する為には、今後も継続する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、実施している。 入居者のありのままの姿を見て頂く目的で一緒に食事作りを企画する等、楽しみながら参加している。	○	今後も継続する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	折りに触れ、又必要時に実情やケアサービスを伝えている。	○	必要に応じて連携していきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当法人教育委員会の主催で、講習会を開き理解を深めるようにしている。	○	研修等に積極的に参加し、理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の状態把握・介護者の言動の実態を管理者が把握し職員もその都度、ミーティングを行い防止に努めている。	○	身体的な虐待・言葉の暴力等は日頃のケアの中で常に意識を持っている。高齢者虐待防止関連法案についての勉強が必要。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて説明するが、不明な点があれば納得のいくまで話をしている。特に、利用料金・事故・看取りについての対応等詳しく説明している。	○	今後も時間を充分にとり、利用者や家族が理解・納得がいくように説明する。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前、相談員だった方が、月1度訪問し歌や踊りのボランティアをしながら、利用者の話をさりげなく聞き、意見を頂いている。又、利用者の言葉からその想いを察知し不安や意見等はミーティングで話し合う。	○	利用者からの意見や苦情は、宝物として受け止めている。更に、一人ひとりの意見を充分に聞き反映することが重要である。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	各担当者が家族に向けて、手紙を発行し近況報告をしている。金銭出納帳については、随時及び定期的に家族に報告・確認している。	○	今後も細やかに報告していきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話等で、家族から意見があった場合は職員に周知徹底し改善に努めている。 意見箱の設置。 外部の苦情相談窓口がある。	○	意見箱の設置はあるが、活用されていないのが現状である。しかし、来居時に苦情を言ってもらえるような関わりを心掛けている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや昼のミーティングで意見を聞くようにしている。又、日頃からコミュニケーションがとれるように心掛けている。	○	継続する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	極力勤務調整が出来るようにしている。利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。	○	利用者や家族の負担にならないよう業務改善に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職はあったが、利用者の負担がないよう引継ぎを充分に行っている。新入職員に対しては、教育を行っている。	○	今後も異動は最小限に抑えたい。離職に関しては、理由を把握し最小限に抑えたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他の事業所の研修会や報告会に順番に参加している。当法人主催の研修会では、多くの職員が受講できるようにしている。研修報告は、月1回のカンファレンス時に行っている。	○	パート職員は、時間が決められているので研修への参加が難しいが、その都度職員が要点を話している。又、重要と思われる研修には、参加している。今後も、教育が重要課題である。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士で相互研修を行っている。地域ネットワーク作りの会にも参加し質の向上を図っている。	○	積極的に交流し、質の向上を図りたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常会話の中や、面談時に職員のストレスや悩みを解消するように努めている。法人主催の親睦会があり、ストレス解消に繋げている。	○	休憩室の設置準備を考えているが、計画が進まない。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者はほぼ毎日現場に出向き、職員の業務や悩みの相談に応じている。	○	随時、積極的に意見交換をし向上心を持って働けるようにしたい。働き甲斐のある職場にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で、生活状態を把握するように努め家族や本人の不安を理解している。コミュニケーションをとる際には、1対1を基本にゆっくりと寄り添い気持ちを大切にするように努めている。	○ 管理者と受け持ち職員が中心になり、充分に関わり徐々に馴染みの関係が築けるよう1対1で対応している。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事業所として、どのような対応が出来るか家族と事前に話し合いをしている。	○ 在宅ケアマネ・行政とも連携を努めているので、在宅状態を把握し他のサービスの利用が出来ないか等、検討し連携をとって今後も継続していく。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては、他の事業所サービスに繋げる等している。	○ 継続する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に、本人・家族に施設見学をしてもらっている。 やむ終えず直ぐに利用になった場合、家族やそれまで関わっていた関係者に来て頂く等して、安心感を持ってもらうようにしている。	○ 納得しているかどうかの判断が難しい場合もあるため、本人の一番あったケアの取り組みに努める。 反応・サインを見逃さない。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「寄り添う介護」を心掛けている。共に生活するという意識を持っている。本人の能力に応じて頂くという姿勢で取り組んでいる。	○ その人らしさを大切に、その方の生活歴・趣味を活かした関わりを心がけ、生き生きされる事柄を見つけだし、ともに行動するようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄せながら機関誌・面会等で日々の暮らしの出来事や気付きの情報共有に努め、本人と一緒に支えるために家族も面会・電話をしてもらえるように努めている。	○	今後きめ細かく続けていく必要がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族の思いや状況を見極めながら、外出や外泊で家族と一緒に過ごすことを勧めたり、家族を行事に誘う等してより良い関係の継続に努めている。	○	継続する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行きつけの理容院への送迎・年に一回の墓参り・入院中の家族の見舞いの同行等をし、関係が途切れないようにしている。	○	今以上に交流の機会を増やしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が上手くいくように、職員が調整役となって支援している。毎日のお茶や食事の時間は、職員も一緒に多くの会話を持つ。役割・活動等を通して利用者同士の関係が円滑になるように支援している。	○	孤立傾向の方に対し、職員が他者とのコミュニケーション援助を行う。意思疎通が困難な方に対し、さりげない援助を心掛ける。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所に移られた方にも、利用者と遊びに行ったり来て頂く様にしている。	○	関係を断ち切らないように心掛けている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と1対1で話す機会がある。そのような時は、希望・要望を伺いできる限り援助している。	○ 今後も本人の意向に添える様、カンファレンス等で話し合い対応して行く。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身の語りや、在宅ケアマネ・民生委員・行政より情報収集・交換を行いケアに反映している。	○ 生活歴・生活環境をよく聞くようにしているが充分とはいえない。何かの機会を捉え情報収集に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握している。定期的な受診で主治医からもアドバイスをもらっている。	○ 一人ひとりをきめ細かく把握すること。その日・その時の状況を把握し対応する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各利用者に担当職員がいる。本人・家族の意見を聞いて介護計画に反映している。カンファレンスを行っている。	○ 継続する。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れつつ状態が変化した際には、直ぐに検討・見直しを行っている。基本的には、プランの見直しは3ヶ月に1回・評価は2週間ごとに行っている。	○ 継続する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄・入浴・血圧・体温・脈拍・睡眠状態と介護計画の達成度を毎日記入し実践に活かしている。	○	個別記録の検討を行いケアに反映している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		法人が連携して対応できるので、本人の生活しやすい場所を選べるように継続していきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人と地域との様々な接点を見出し、周辺施設への働きかけボランティアへの協力を呼びかけている。	○	歌・踊り・絵手紙等は定期的にボランティアに来ていただいている。今後も引き続き、本人の意向でふれあい大学への参加を継続する。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやサービス事業者と情報交換をしている。	○	継続する。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域支援包括センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに関係が強化された。周辺情報や支援に関する情報交換・協力関係を築いている。	○	地域包括支援センターとの情報交換を密に行い、今後も速やかに対応していく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医となっている。事業所の協力医の他、かかりつけ医での医療を受けられるようにしている。また、かかりつけ医とホーム間で連絡ノートを作り、互いに情報交換を行っている。	○	継続する。
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医の中に認知症専門の医師がいる。引き続き受診し相談をしている。		継続する。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師である。毎朝の申し送り時又、必要時には利用者の状況を報告し、介護職員への指導・助言している。連携が図られている。同法人の外来看護師との連携が図れており、緊急時にも直ぐに対応してもらえる。		継続する。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際、医療機関・家族・主治医等に連絡相談し、早期退院に向けた支援を行っている。		継続する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末が近づくと、家族・医師・看護師・介護員を交えて話し合いを行っている。状態の変化があるごとに、医師からの説明・家族の気持ちの変化・本人の思いに注意を払い支援に繋げている。又、8月より看取りの指針の同意書を取った。	○	8月より中海病院が休床になり家族から不安の声が上がったが、看取りの指針の同意書を頂き連絡等頻繁にしている。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医と連携をとり、今後のケアについて指導を受けるとともに、職員間でケアの統一を図っている。家族については、折りにふれ話している。	○	特に夜勤者の不安が大きいが管理者との連絡を頻繁に行い、少しでも不安が軽くなるように対応している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合、アセスメント・ケアプランや支援状況等を渡すとともに情報交換を行っている。馴染みの職員が機会を作って訪問し、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている。		継続する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、職員の意識向上を図ると共に日々の関わり方をリーダーが点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を図っている。	○	言葉掛け等は、常に注意を払っている。意識を持って対応するように心掛けている。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に合わせて声をかけ、意思表示が困難な方には、表情を読み取ったり、些細なことでも本人が決める場面を作っている。(飲みたい物、食べたい物、するしない等)	○	自己決定しやすい関係作り、支援を継続する。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。本人の意思を尊重し、ペースに合わせて支援している。	○	全員に、その人らしい生活ができるように援助したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近所の美容室が馴染みだったり、昔からの馴染みの理容室には、職員が送迎している。衣類(更衣)の介助を要する方にも、その日着たい服をご自分で選んで頂いている。		継続する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に食事準備～食事～後片付けをしている。又、裏の畑から一緒に採ってきた野菜をメニューに加えたりする。	○	好みに合わせた献立作りや好き、嫌い、に対するの対策をとっているが、その日の調子によって残菜が多い方があり、食べられるように工夫をしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入浴後、夕食時に家庭と同じように晩酌を楽しまれる。煙草は、所定の場所で楽しまれている。		継続する。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自宅や、他の施設でオムツ・紙パンツ等を使用していた方にも、排泄パターンを把握し、トイレ誘導をするようにして布パンツへの移行に取り組んでいる。又、野菜を中心の献立にし、繊維質の多い材料や飲み物を使用し下剤を減らす工夫をしている。		引き続き、オムツ・パットの使用を減らし、気持ちよく過ごして頂ける様に支援したい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を出来るだけ取り入れ、入浴をして頂いている。又、入浴拒否のある方には事情を聞き、職員と一緒に入浴し安心感を持ってもらうようにしている。体調不良で入浴できない方は、清拭やシャワー浴、足浴をし清拭保持に努める。	○	継続する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼は利用者のその日の心身の状態を把握し、必要に応じて休息をして頂いている。夜は安眠できるように寝具の調整、室温等環境調整をしている。時には、話を傾聴したり、温かい飲み物等を用意し精神安定を図っている。	○	継続する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮してもらい、負担にならない程度にお願いし、感謝の言葉を伝えるようにしている（居室・玄関掃除、洗濯物たたみ、調理、干し柿、漬物作り等）外出や地域の行事参加等の楽しみごとを、利用者と相談しながら行っている。	○	可能な限り、本人の思いを聞き取り、気晴らしの実現が出来るよう支援していく。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て小額のお金を持っている人もある。家族よりお金を預かり、事業所が管理している人でも、外出時や喫茶店のお金等は自分で支払いして頂けるように、財布にお金を入れ、渡す工夫をしている。	○	今後も本人の意思を尊重しながら実施していく。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、季節を肌で感じて頂き」、心身の活性化に繋がるよう、日常的に散歩、買い物或いはドライブ等に出掛けている。定期的な外出やマッサージに家族と出掛ける利用者もいる。	○	今後も個々の思い、家族の思いを尊重しながら支援していく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	「故郷に帰ってみたい」「入院中の夫に面会したい」等の利用者の思いが出された時は、家族と話し合い、実現できるようにしている。	○	今後も個々の思い、家族の思いを尊重しながら支援していく。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話のできる方には、電話は自由に使ってもらっている。絵手紙等完成した時は、それを使い便りを出している。特に絵手紙は家族に喜ばれている。	○	継続する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・友人等本人の馴染みの人達がいつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう、来やすい雰囲気作りを心掛けている。泊まれる家族には、布団を提供し、食事等も一緒に食べて普段の生活を見て頂くようにしている。食事に関しては、時にはアドバイスを頂く。	○	今後も入りやすい雰囲気作りに努めたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当法人の身体拘束廃止推進委員会で研修し、身体拘束への意識を、職員全員が持ち実践ケアを行っている。	○	身体的な拘束のみでなく、言葉の拘束も注意しながらケアをしている。職員の意識は高まっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守り方法を徹底し、又一人ひとりのその日の気分や状態をきめ細かくキャッチすることで、昼間は玄関の鍵を掛けずに、自由な暮らしを支援している。	○	今後も鍵を掛けないケアに取り組む。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在確認や、状態観察を職員全員で連携をとり行っている。	○	より一層安全が図れるように継続したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物は利用者の目のつくところには置かず、置き場を決めている（食べられない物、飲めない物、液体類）	○	今後も継続する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	研修会等に参加し、研鑽している。カンファレンスを行い、ケアの統一を図り、事故防止に努めている。万が一、事故（転倒等）があった場合には、事故分析を行い再発防止に努めている。転倒の危険、可能性の高い方、危険度が一目で判るように、カーデックスに印をつけ意識を高めている。	○	ヒヤリハットが多い。個々を把握し、さらに事故防止に努める。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法の研修に参加している。また、夜間時の救急対応については、マニュアルを整備し、周知徹底を図っている。他部署看護師による緊急時や急変時の対応についての勉強会を行っている。	○	利用者の状況に合った応急手当については定期的な訓練の実施が必要。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回の消防訓練実施（消防署参加）、避難訓練し、特に夜間対応が素早く出来るように訓練している。運営推進会議でも、災害対策について話し合いを行い、協力を得るようにすすめている。	○	法人内での通報・避難訓練はしている。地域住民の協力が必要なので、訓練に参加して頂く方法を考えていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	様々な役割活動や、自由な外出等により、リスクが高くなるものの、力の発揮や抑制感のない暮らしが利用者の表情を明るくし、むしろ行動の障害を少なくしていることを、家族に見てもらったり、具体的に説明している。	○	利用者、家族側の立場で考えるように丁寧に対応していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から体調の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化等があれば直ぐ管理者に報告し、情報を共有する。毎朝、医師がホームに出向き利用者と馴染みの関係を築く事で、早期発見に取り組んでいる。		今まで通り、報告・連絡・相談を徹底する。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に変更があれば主治医から、看護師に連絡が入り他の職員に情報を入れている。お薬手帳や薬情報ファイルを作り、用法や用量等について理解している。	○	服薬に関しては、特に重要なので、引き続き確認をする。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日頃より、便秘の弊害を職員に話し、食事・水分・運動に心掛けている。決まった時間に排便が出来るように、チェックをしながらトイレ誘導を行っている。又、自然な排便を促すように、腹部マッサージ・繊維質のある飲料を取り入れている。	○	水分と運動が不足しがちである。更に本人にあったケアを心掛ける。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの状況に沿って支援している。(毎食後、職員が声掛けし、見守り介助を行っている。)就寝前は、義歯を洗浄液に浸けている。口腔内トラブルがあれば、協力歯科に連絡し、診察を受けている。	○	継続する。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を、毎日把握、チェックし情報を共有している。週1回、管理栄養士が献立をチェックしアドバイスをしてもらっている。食事がどうしても入りにくい場合、栄養補助食品等で対応している。		きめ細かく一人ひとりにあつた支援をする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人内で、感染対策委員会があり、指導の下、マニュアル作成、全職員で徹底している。インフルエンザ予防接種は、職員、利用者全員が受けている。		日頃より、手洗いの徹底、手すり、トイレ、椅子のハイター消毒を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は、洗浄し毎晩ハイター消毒を行っている。残菜は、保管せず感染予防に心掛けている。台所、冷蔵庫をこまめに掃除している。毎日買物をして新鮮な食材を買い求めている。		食中毒の予防について、細心の注意を払っていききたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるように、生け花・絵手紙の展示をして、和みの場を作っている。	○	地域の来訪者が少しずつ増えてきた。引き続き、出入りが出来るように工夫をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご飯の炊ける匂い、料理の匂いや調理の音等、極力五感に働きかける工夫をしている。共有スペースの畳部屋には、掘りごたつがあり、利用者、家族、職員と寛いでいる。		継続する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳部屋があり、ゆっくり過ごす事が出来る。利用者一人ひとりの希望に沿い、好みの場所を大切にしている。	○	レイアウトの工夫をし、落ち着いて過ごせる環境を整える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	昔馴染みの家具、使い慣れた物を持ってきて頂き、居 心地の良い空間作りに努めている。	○	家庭の事情により、馴染みの物を持ち込めない場合 もある。引き続き家族の協力を得ながら、本人が居 心地良く過ごせるよう支援していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	毎日（その都度）、換気・掃除を行っている。室温、 空調の調整をこまめに行い快適に生活していただける 配慮をしている。	○	必要に応じた対応を今後も継続していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、良肢位が保てるよう足台を作 成する等工夫をしている。	○	継続する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	トイレの場所がわかるよう「便所」と大きく書いてい る。	○	目立たぬように、さりげなく判るような工夫をして いきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭に、花を植えたり、畑には利用者と一緒に野菜を 作ったり、匂いものを楽しんでいる。車椅子の方も 出入りしやすく、外の空気や景色を楽しめるよう になっている。	○	四季折々の花や野菜を絶やさず、外周りでの活動が 楽しめるよう今後も継続していく。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
V. サービスの成果に関する項目				
項 目		取 組 みの 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない		
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

運営推進会議、「白鳥の里」独自の行事等で少しずつ地域交流の輪が広がってきた。これをきっかけに、利用者の顔を覚えてもらえるようになってきている。更に、自治会の高齢者の1人として仲間入りし、行き来が出来るようにしていきたい。